

2021,10,27

## 西山城跡の準備に行きました

10月29日実施予定の準備に行きました。倒木処理や自然観察のポイント調査・コースタイムの確認などしました。ナツハゼの実がたくさんあり、ご笑味体験をしていただこうと思います。みなさまのご参加をお待ちしています。

### ◆歴史・眺望・自然観察など



三ツ石登山口



アキジョウジの花



信長の隠れ岩 ①



裏側



紅葉が始まり樹林は綺麗。去年新コースとして整備。階段が流れているので再整備。(里山整備)

### 西山城跡

西山城は、近江源氏佐々木氏の分家である朽木氏によって、戦国時代に築かれた山城です。ここより南南西1.3kmには朽木氏の本城であった朽木城がありました。

西山城は朽木城の背後を守るための支城であるとともに、西方の若狭街道(關の道)や東方の朽木街道(琵琶湖方面)を監視するのに適した位置に築かれていました。

当城は標高356mの西山山頂部を中心に、南北450mの広範囲に、10か所以上の曲輪とよばれる陣地がつくられています。また、堀切やタテ堀という空堀をもうけたり、曲輪の陣地には土を盛り上げた土塁をもうけて、守りやすく攻めにくい工夫がされています。なかでも、南側の出入口(虎口)の内部には進入してくる敵兵を集中攻撃するための長方形の空間(俵形)や、北側虎口の上方にはノロシ台をもうけるなど、小規模ながら高い技術を用いた城であったといわれています。



西山城跡 ①



②溜枡



③堀切

ゆっくり散策し、歴史ロマンを楽しみましょう。

**西山城遺跡** (滋賀県高島市朽木野尻)

西山城遺跡は、安曇川沿いに形成された朽木谷の北端、西山(標高356m・比高200m)と呼ばれる山上に築かれた山城です。若狭と京を繋ぐ若狭街道と安曇川下流域を見下ろす要衝地に位置します。

西山城は、室町時代中頃に朽木氏の拠点が岩神館から朽木城(後の朽木陣屋)に移った時期に造られたと考えられています。朽木城の背後の山上にあり、敵に攻められた際に立てこもって戦う詰城と考えられています。

西山城の縄張りは、山頂部に構築された主郭を中心に南北に曲輪を配置したシングルな構造になっています。東西約43m、南北約450mの山頂部に、東西約20m×南北約40mの周囲を低めの土塁で囲んだ主郭を設け、北端には高さ2~3mの土塁でコ字状に囲まれた烽火台跡が残っています。一段低い南北の位置には、曲輪(北曲輪・南曲輪)が配置されます。南曲輪は東西約50m×南北約30mの広さで、東から西側に2段に削平され、北曲輪は東西約30m×南北約20mに削平されています。虎口(出入口)は、西側に2ヶ所設けられ、南側の虎口から主郭に至る間は、敵の侵入を阻むための柵形を設けています。北曲輪の東端には飲用水を溜めたとされる石積の溜枡遺構が確認できます。また、南北の尾根筋から侵入してくる敵を遮断するために北曲輪の北側に3条の堀切と、南曲輪の南方に1条の堀切を設け遮断し防御を強固にしています。

以上のように西山城の構造は、小規模ながら随所に様々な城郭構造をコンパクトに配した城郭といえ、長期間の籠城よりも、安曇川下流域と若狭街道を監視する機能を優先し、朽木城への外敵侵入を防ぐことを目的に築城されたものと考えられます。



朽木本陣跡①



② 井戸跡



③ 堀跡

ここで、中昼にしましょう。

皆さまのご参加をお待ちしています